

1. テーマ

「これからの生化学分析装置に求めること」

2. 要旨

昨今、メタボリックシンドロームという言葉テレビ、新聞、学会などで耳にする機会が多くなっている。

また、厚生労働省より、今般の「医療制度改革大綱」（平成17年12月1日 政府・与党医療改革協議会）において「生活習慣病予防の徹底」を図るため、平成20年度からメタボリックシンドロームの概念を導入した標準的な健診・保健指導プログラムが義務づけされることになった。これは、医療保険者が義務として実施する特定健康診査及び特定保健指導の対象者である40歳から74歳を対象とし、約4000万人が対象になる見込みである。

その健診項目として現在検討されている血液検査は10項目であり、その中に糖尿病マーカーであるHbA1Cが含まれている。

HbA1Cは溶血もしくは全血サンプルを用いて測定し、残りの9項目は血清サンプルで測定をするため、HbA1Cのみ専用機で測定を行う或いは作業者が採血した全血をマニュアルで溶血させて生化学分析装置で測定をするということが想定される。

この方法には、作業者が2台の装置を管理する必要性があることや溶血検体を調製する負担が大きいことなど課題も多く、HbA1C測定の増加により今後ますます作業者の負担が大きくなることが予想される。

弊社は、生化学、輸血、電気泳動装置など古くから開発・販売している臨床検査装置に加えて新たに免疫検査装置 AU3000iを開発した。また、お客様のニーズに応えるために検査機器だけにとどまらず検査試薬の開発・販売を含めて事業を年々拡充させている。

とりわけ生化学分析装置・試薬は、事業の中核となっている商品であり、平成20年以降にHbA1C項目と生化学項目を組み合わせた検体数の増加が予測される環境変化に対するために弊社が考える「更に付加価値の高い生化学分析装置とは何か」をご紹介したい。